

満州における日本仏教各宗派布教所数（1944年2月時点）

真宗大谷派	80
浄土真宗本願寺派	53
真言宗	40
曹洞宗	37
日蓮宗	34
浄土宗	28
日本山妙法寺	17
臨濟宗	9
天台宗	2
浄土真宗興正派	1
時宗	1
華嚴宗	1

『真宗』1968年9月号

【台湾】

1895（明治28）年6月、現地の中央官庁である台湾総督府が置かれると、まず曹洞宗が従軍僧を派遣した。少し遅れてほかの各宗派も従軍僧を派遣した。だが、現地では激しい抗日抵抗運動が続いていた。戦闘の中で従軍布教をするという過酷な状況であった。

南国特有の劣悪な衛生状態が、軍人や布教師を苦しめた。台湾討伐の近衛師団長として率いた皇族で陸軍中将の北白川宮能久（きたしらかわのみやよしひさ）は現地でマラリアに罹って、死去。軍人の多くが伝染病で倒れていった。従軍僧たちはその埋葬と弔いに忙殺された。

犠牲になった従軍僧もいた。台湾西方に点在する澎湖諸島に入っていた浄土真宗本願寺派の僧侶2人が、コレラや赤痢に罹って死亡。ほかの従軍僧も疫病に罹患し、帰国を余儀なくされたケースも。

台湾北部が平定されて、情勢が安定してくると多くの宗派が本格的に開教を開始する。曹洞宗のほか浄土真宗本願寺派、真宗大谷派、浄土宗、真言宗、天台宗、臨濟宗、日蓮宗が台湾開教に乗り出した。